

平成 1 2 年度連携排砂が 8 月末までに なかった場合の対応について

平成12年度連携排砂計画

項 目	排 砂		通 砂	
	宇奈月ダム	出し平ダム	宇奈月ダム	出し平ダム
（１）時期	・ 7月10日～8月31日でダム流入量が、出し平ダムで300m ³ /s、宇奈月ダムで400m ³ /sのいずれかを上回る最初の出洪水時に実施。		・ 7月10日～8月31日で排砂後のダム流入量が、出し平ダムで480m ³ /s、宇奈月ダムで650m ³ /sのいずれかを上回る出洪水時にその都度実施。	
（２）排砂量	・ 目標排砂量 0 m ³	・ 目標排砂量約 20万 m ³	・ 自然の出洪水流を排砂ゲートを用いてその都度流下させる。	
（３）方法	・ 自然流下方式		・ 同左	
（４）時間	・ 自然流下時間 12時間	・ 宇奈月ダム自然流下内に完了 （自然流下時間 最低 12時間）	・ 自然流下時間 12時間	・ 宇奈月ダム自然流下内に完了
（５）排砂・通砂前の措置	・ 出洪水の調節の後期（ダム水位が高い）段階から水位低下操作運用とする。	・ 出洪水の初期（ダム水位が高い）段階から排砂ゲートを開ける運用とする。	・ 同左	
（６）排砂・通砂後の措置	・ 排砂後24時間はダム流入量をダム及び宇奈月発電所から放流する。	・ 排砂後24時間は原則として発電取水を停止し、ダム流入量をそのまま放流する。	・ 通砂後12時間は、ダム流入量をダム及び下流発電所から放流する。	

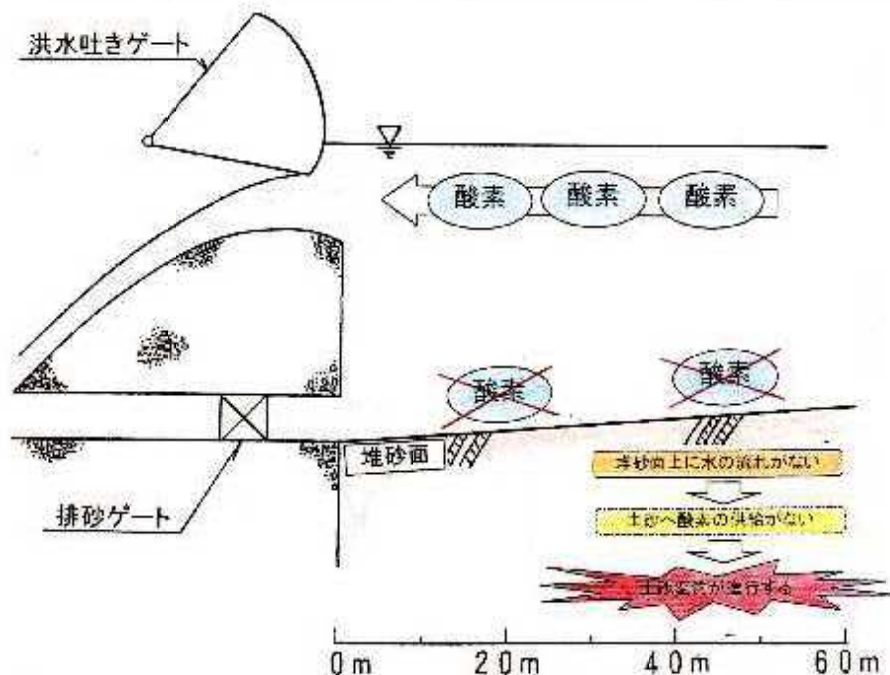
【特記事項】

1. 上記の排砂条件を満足する出洪水の発生がない場合を想定して、土砂変質の進行を抑制するため、その方法について協議していくこととする。
2. 大規模な土砂の流入等、不測の事態が発生した場合、また発生が予想される場合については、その対応について適宜協議していくこととする。

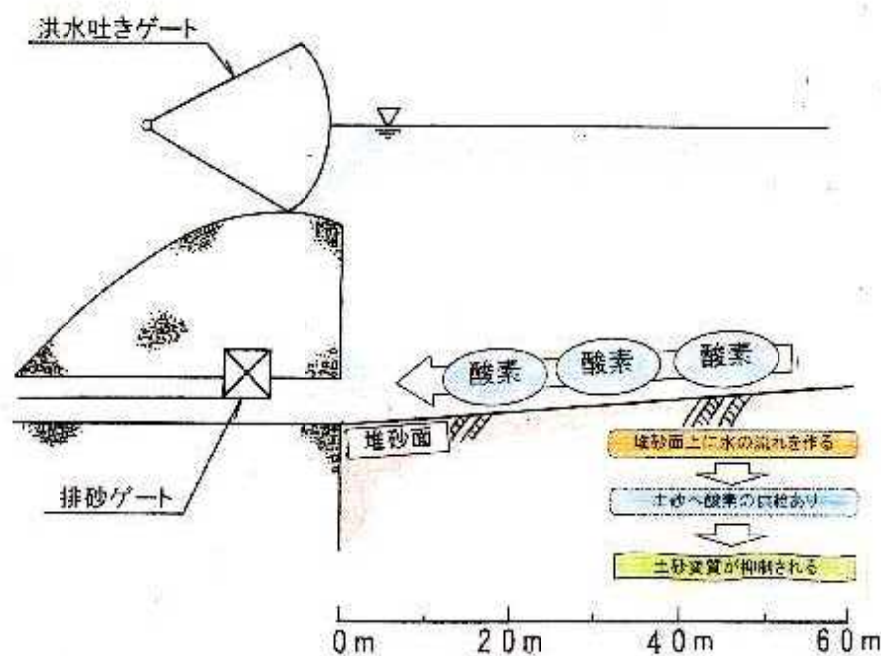
底部放流による土砂変質の進行の抑制策のねらい

概念図

通常の放流方法



排砂ゲートを利用した底部からの放流方法

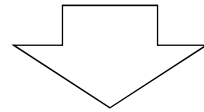


ねらい

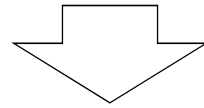


底部放流による土砂変質の進行の抑制（実施のフロー）

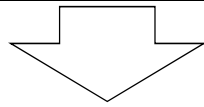
9月13日（水）までの出水（降雨）時、もしくは出水（降雨）が発生しない場合は9月14日（木）



洪水吐きゲートによりダム放流を開始する（ $0\text{m}^3/\text{s}$ から立ち上げ $80\text{m}^3/\text{s}$ 程度以上を放流する）

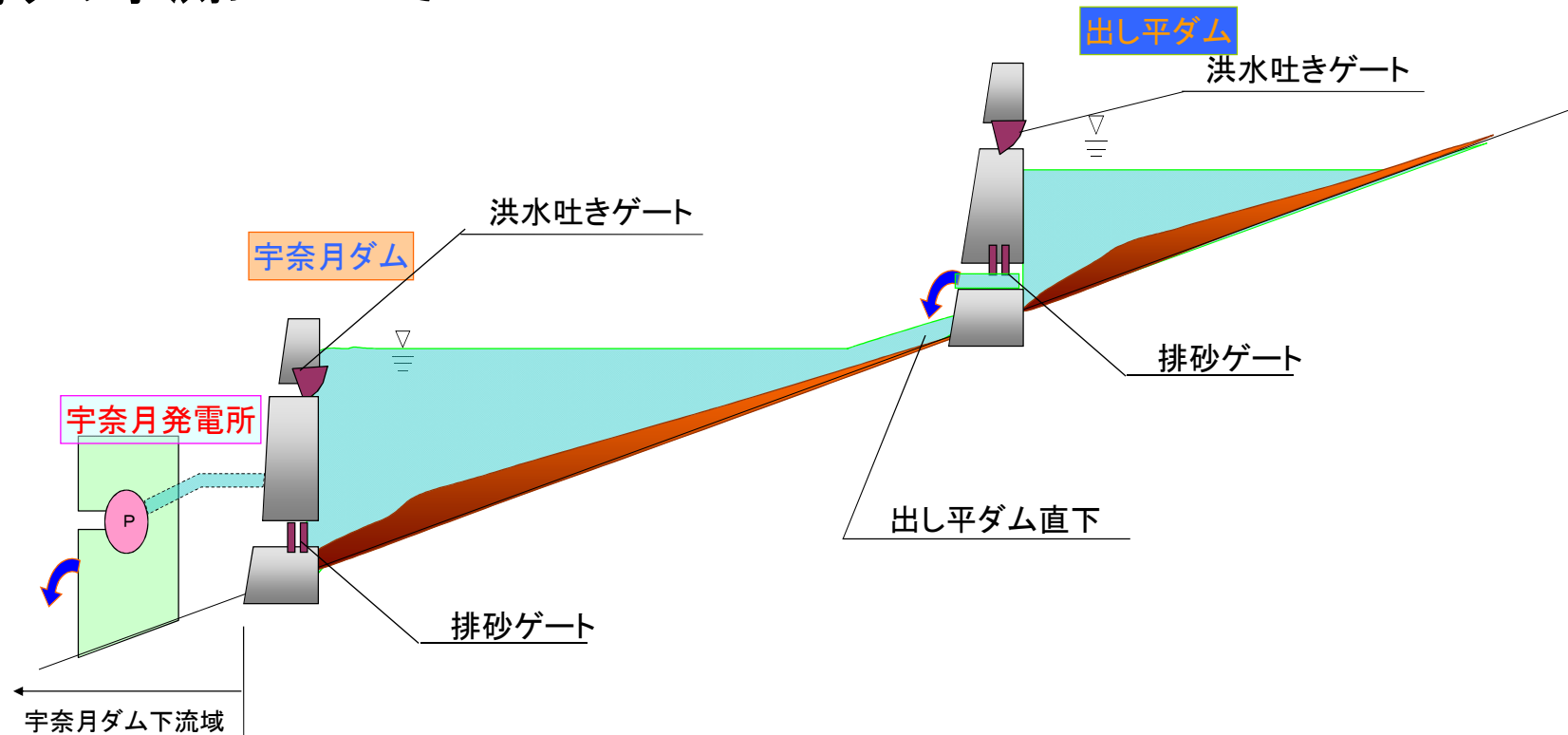


ダムからの放流を「洪水吐きゲート」から「排砂ゲート」に切り替え、放流する（8時間程度）



ダムからの放流を完了する。（通常の運用に戻る）

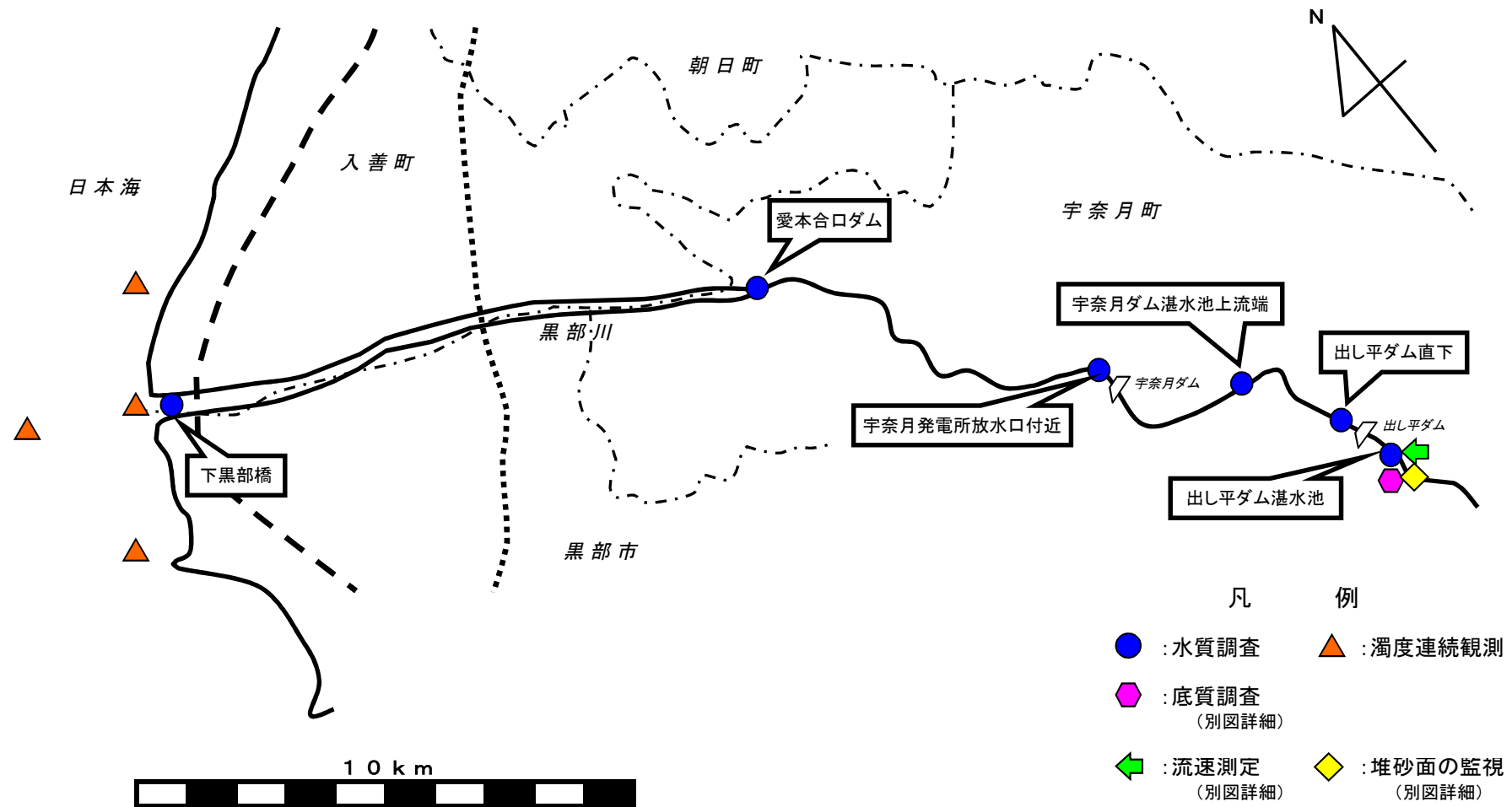
濁りの予測について



	宇奈月ダム下流域	出し平ダム直下
濁りの予測	SS=10~100 mg/l (濁度=1~10 度) が付加される	SS=1,000~10,000 mg/l (濁度=100~1,000 度) が付加される

調査位置図(1／3)

(全 体)



調査位置図(2／3)

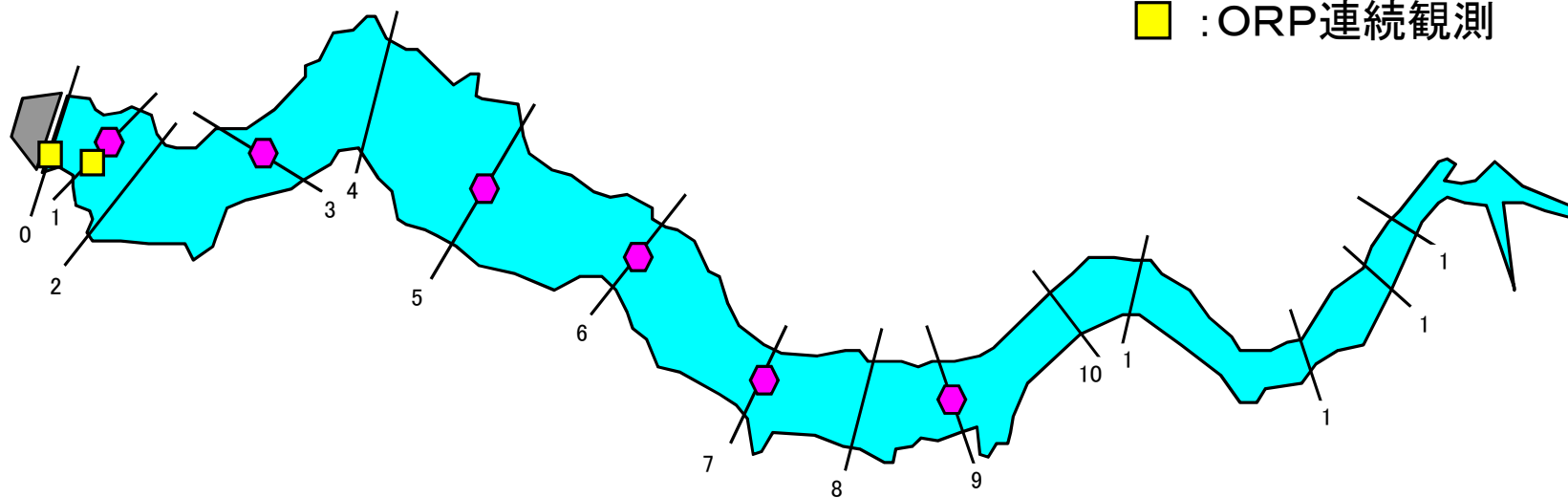
(出し平ダム)

底質調査地点詳細

凡 例

◆ : 表土採泥調査

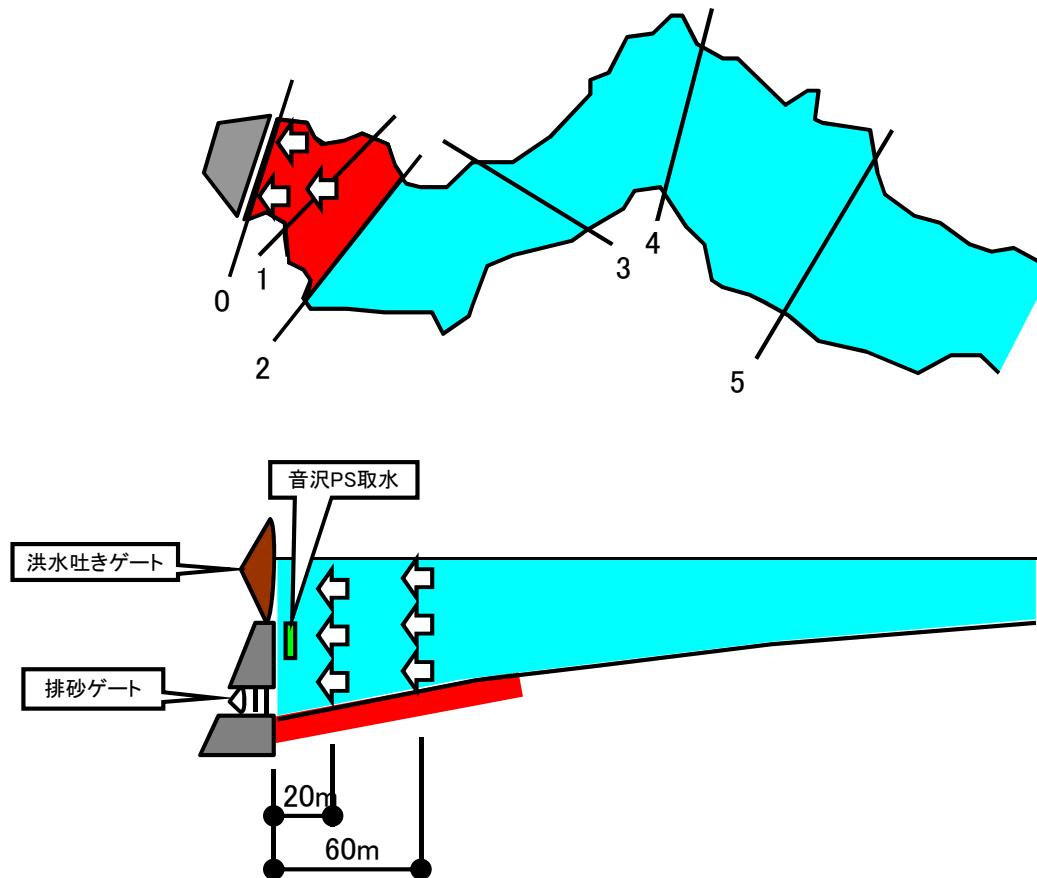
■ : ORP連続観測



調査位置図(3/3)

(出し平ダム)

計測調査詳細



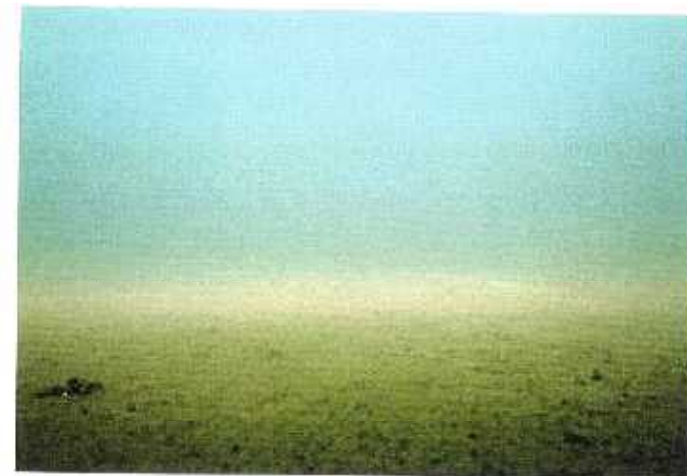
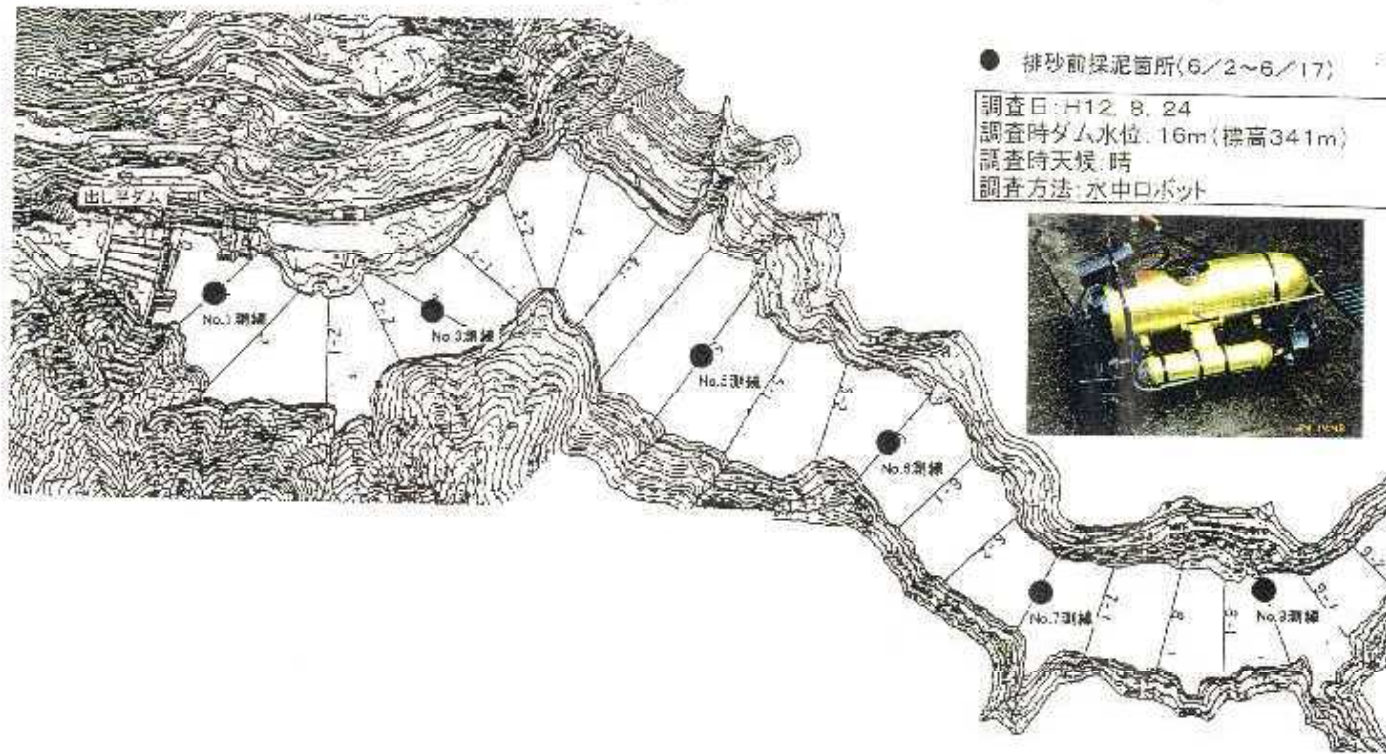
凡 例

⇐ : 流速測定

■ : 堆砂面の監視

出し平ダム湖底調査結果

1. 調査位置図



NO. 5測点 水深5. 1m



NO. 1測点 水深33. 4m



NO. 3測点 水深23. 2m



NO. 6測点 水深8. 8m

宇奈月ダム貯水池 調査地点位置図 (水中ロボット調査)

宇奈月ダム

No. 1

No. 2

排砂ゲート上流

No. 3

No. 3



No. 6

最上流部

排砂ゲート上流



No. 5

No. 4

最上流部

